

平成27年度県内小・中学校における農業体験学習実施調査結果(平成28年3月)

<農業体験学習実施状況>

	小学校					
	学校数 (A)	回答数 (B)	回答率 (C)	実施校数 (D)	実施率 (D/B)	前回実施 率(H25)
大河原教育事務所	47	44	93.6%	37	84.1%	81.8%
仙台教育事務所※1	67	57	85.1%	42	73.7%	75.0%
北部教育事務所(大崎)	50	47	94.0%	44	93.6%	88.2%
北部教育事務所(栗原)	13	8	61.5%	6	75.0%	52.9%
東部教育事務所(登米)	22	20	90.9%	19	95.0%	82.4%
東部教育事務所(石巻)	46	40	87.0%	33	82.5%	71.1%
南三陸教育事務所	22	20	90.9%	18	90.0%	88.9%
仙台市教育委員会※2	124	102	82.3%	70	68.6%	69.4%
私立ほか	5	3	60.0%	2	66.7%	66.7%
合計	396	341	86.1%	271	79.5%	75.6%

※1 塩竈市, 名取市, 多賀城市, 岩沼市, 亶理郡, 宮城郡, 黒川郡(仙台近郊)

※2 仙台市内

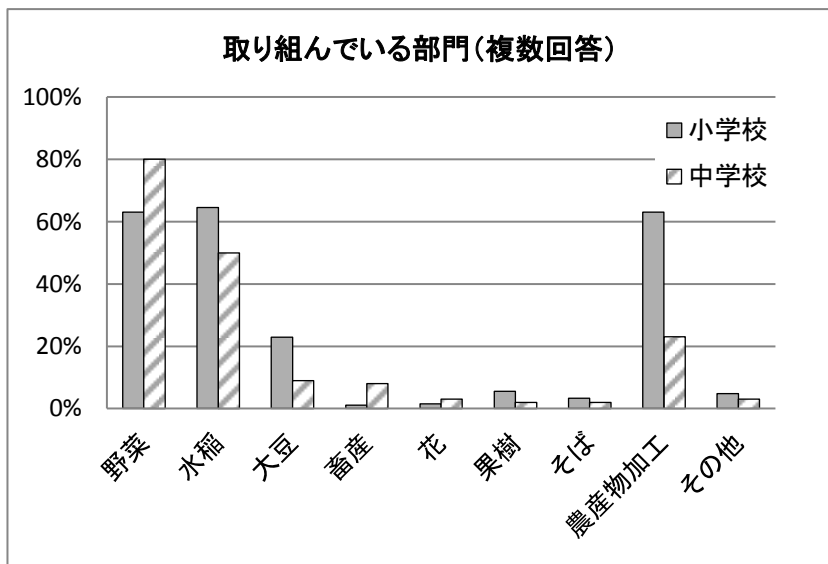
	中学校					
	学校数 (A)	回答数 (B)	回答率 (C)	実施校数 (D)	実施率 (D/B)	前回実施 率(H25)
	23	20	87.0%	7	35.0%	42.9%
	39	34	87.2%	18	52.9%	51.4%
	19	16	84.2%	7	43.8%	41.2%
	8	6	75.0%	4	66.7%	57.1%
	10	8	80.0%	3	37.5%	11.1%
	24	22	91.7%	7	31.8%	19.0%
	14	14	100.0%	3	21.4%	21.4%
	64	56	87.5%	49	87.5%	90.4%
	11	4	36.4%	2	50.0%	28.6%
合計	212	180	84.9%	100	55.6%	51.9%

小・中学校合計

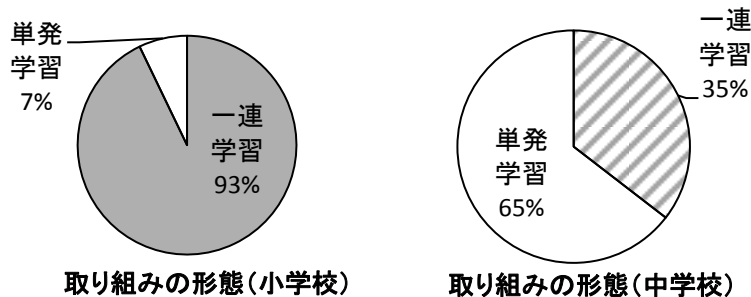
	学校数 (A)	回答数 (B)	回答率 (C)	実施校数 (D)	実施率 (D/B)	前回実施 率(H25)
	大河原教育事務所	70	64	91.4%	44	68.8%
仙台教育事務所	106	91	85.8%	60	65.9%	66.3%
北部教育事務所(大崎)	69	63	91.3%	51	81.0%	76.5%
北部教育事務所(栗原)	21	14	66.7%	10	71.4%	54.2%
東部教育事務所(登米)	32	28	87.5%	22	78.6%	57.7%
東部教育事務所(石巻)	70	62	88.6%	40	64.5%	54.5%
南三陸教育事務所	36	34	94.4%	21	61.8%	59.4%
仙台市教育委員会	188	158	84.0%	119	75.3%	76.7%
私立ほか	16	7	43.8%	4	57.1%	40.0%
合計	608	521	85.7%	371	71.2%	67.5%

<実施校での具体的な取組内容>

①取り組んでいる部門(複数回答)



②取組の内容



①回答率は86%(H25年度も86%)

②県内小・中学校の農業体験学習実施率は71.2%(H25年度は67.5%)

③小・中学校ともに実施率は上昇
 小学校 79.5%(H25 75.6%)
 中学校 55.6%(H25 51.9%)

④小学校では、仙台市内※2と仙台近郊※1以外の地域で実施率が上昇した。特に、大崎、登米、南三陸地域では実施率が9割以上であった。

⑤中学校では、小学校と比較すると、実施率はそれほど高くないが、大河原と仙台市内以外の地域で実施率が上昇した。

①小学校では野菜や水稲の栽培、生産物を使った農産物加工が多く取り組まれている。大豆栽培は、豆腐やずんだ、味噌づくりと合わせて行われている。野菜部門ではサツマイモ栽培が最も多い。

②中学校では野菜栽培が最も多く、水稲栽培、農産物加工と続く。

<農産物加工の具体例(小・中共通)>

餅つき、豆腐づくり、味噌づくり、ずんだづくり、そば打ち、野菜や米を使った調理実習、ジャムづくり、バターづくり、こんにやくづくり体験 等

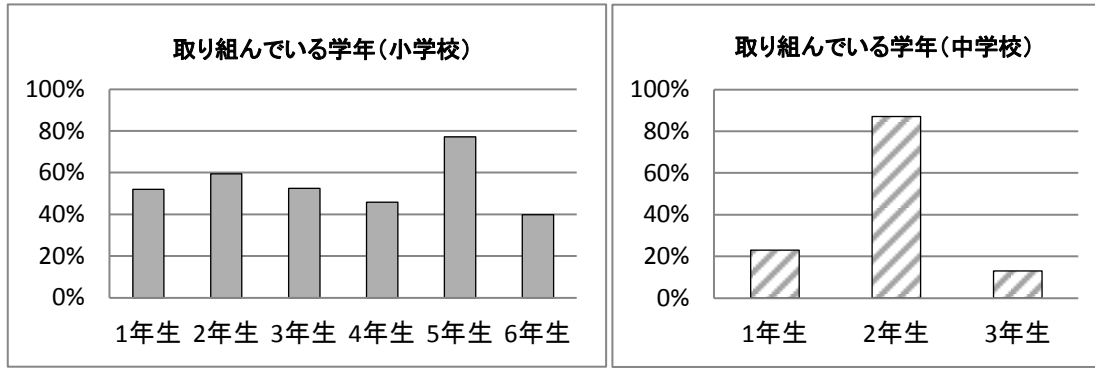
<その他の具体例(小・中共通)>

紅花栽培・染め物、堆肥づくり、きのこ、綿花、養蚕、茶 等

①小学校では、播種～栽培～収穫～加工(調理)など、一連の作業に取り組む学校が93%を占めている。

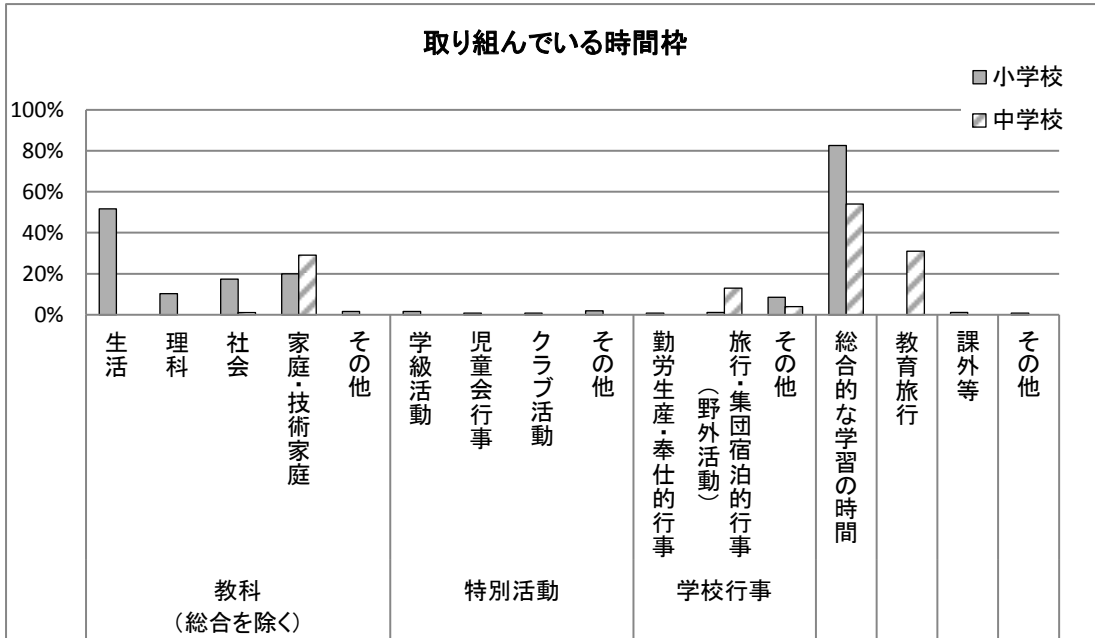
②中学校では、民泊先での体験など、単発的な取り組みが65%を占めている。

③取り組んでいる学年(複数回答)



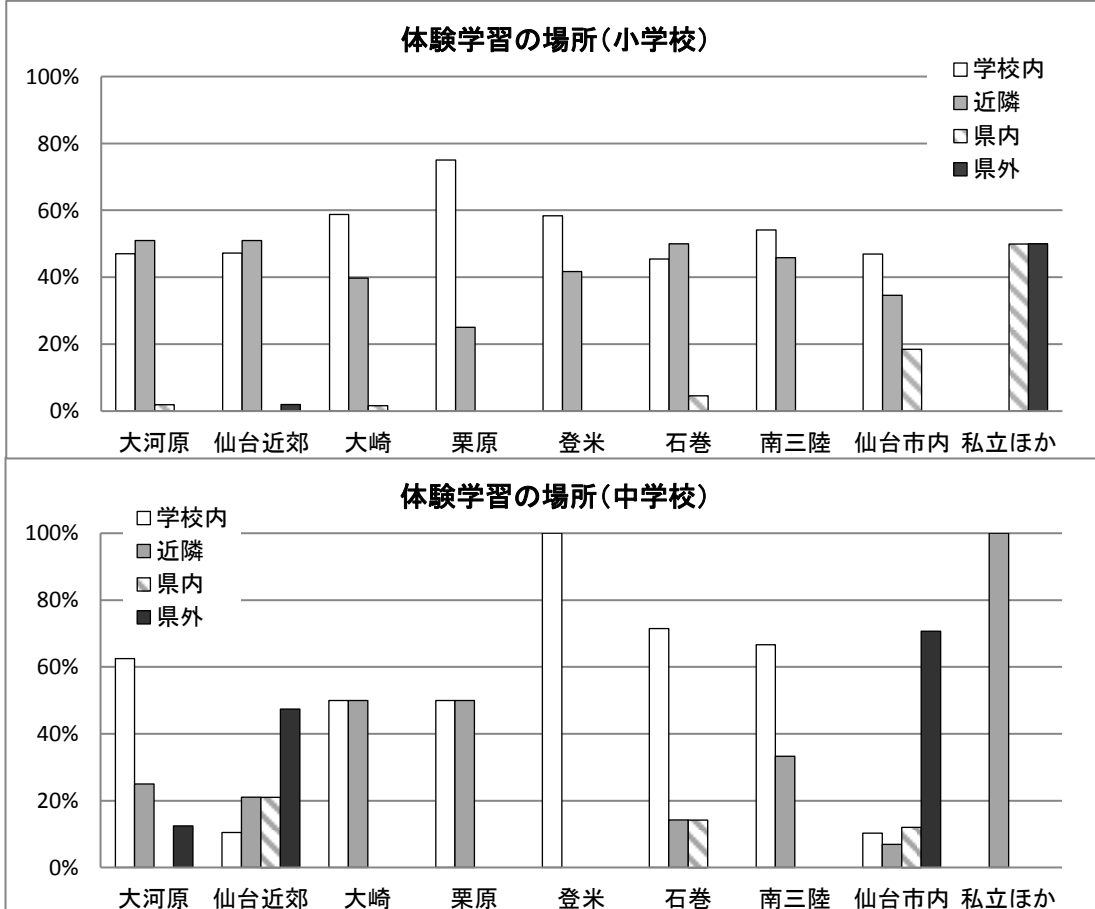
①小学校では、5年生の取組が最も多く、6年生が最も少ない。
②中学校では、2年生による取組が最も多い。

④取り組んでいる時間枠(複数回答)



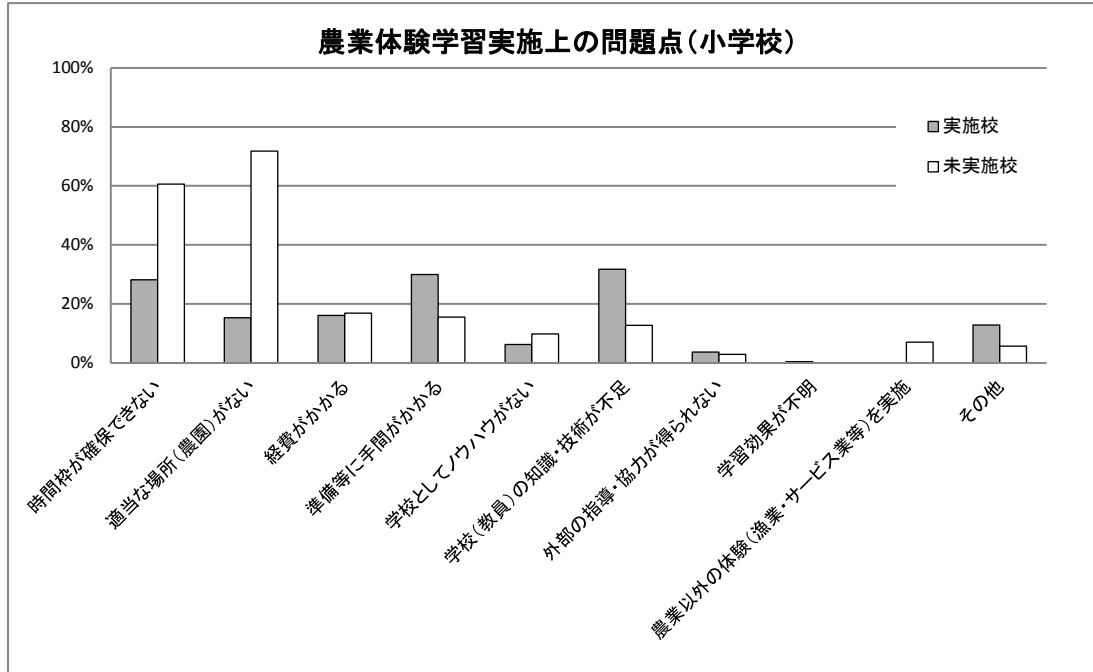
①小学校では、5年生を中心とした総合的な学習の時間での取組が最も多く、次に2年生による生活での取組が多い。学校行事として全学年で取り組む学校もある。
②中学校では、2年生の総合的な学習の時間での取組が最も多く、職場体験学習や、教育旅行など宿泊を伴う取組が多い。

⑤体験学習の場所(複数回答)



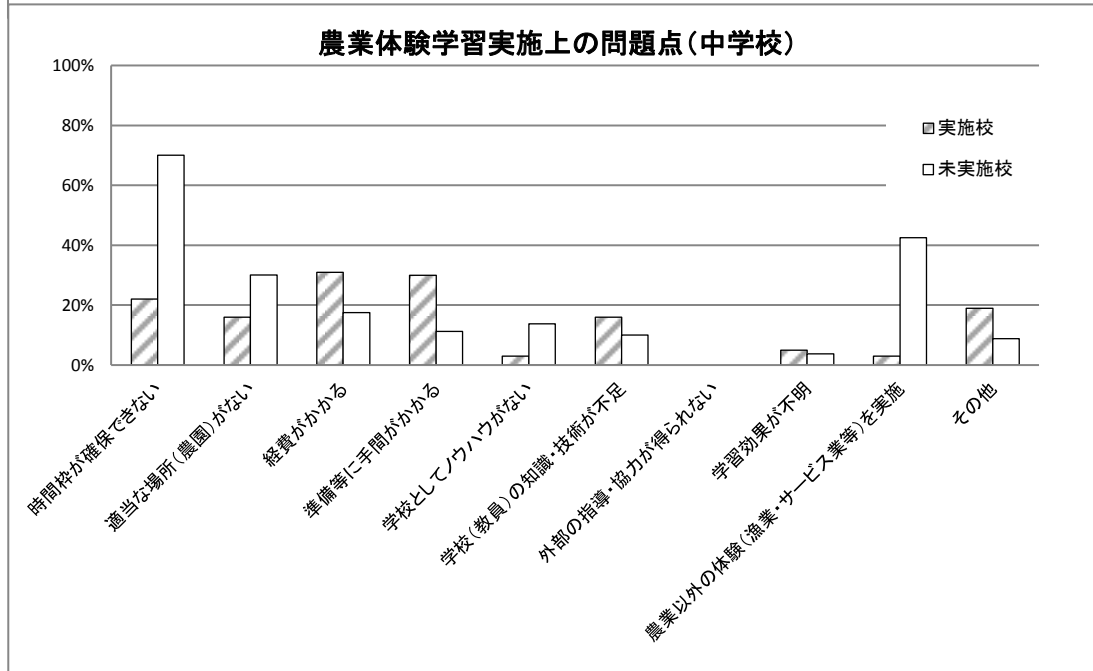
①小学校では全地域で、学校内(教材園や校庭に作った田畑)での体験学習が多く実施されている。
②近隣農家での活動には、田畑を借り受けて学童農園や学習田等としているケースも多い。
③県内他地域での活動は、仙台市内の学校で最も多かった。
①中学校では、仙台市内・仙台近郊の学校で、県外での体験学習が大きな割合を占めている。行き先は全て東北地域で、秋田県が最も多い。
②県内の行き先は加美町が最も多い。加美町にはグリーンツーリズム推進協議会があり、受入体制が整っている。
※以下の地域は実施校数が少ないため考察外。栗原(4校)、登米(3校)、南三陸(3校)

＜農業体験を実施する上での問題点(複数回答)＞(未実施校は実施しない理由)



①小学校では、実施校においては「学校の知識・技術の不足」、「準備等に手間がかかる」を課題に挙げている学校が多く、次に「時間がない」が多くなっている。
「準備等に手間がかかる」: 具体的には、協力者との事前打ち合わせ等の時間確保が困難、夏休み中などの農園管理が教員中心になってしまう等の意見が多かった。

②未実施校では、「場所がない」、「時間がない」が多くなっている。「場所がない」と回答した学校の約半数は仙台市内である。

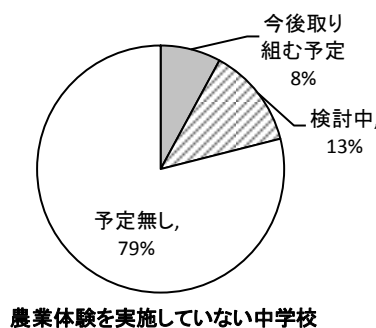
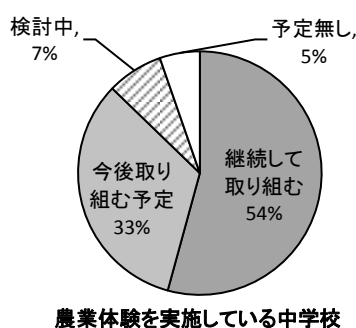
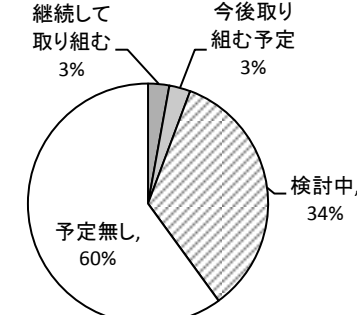
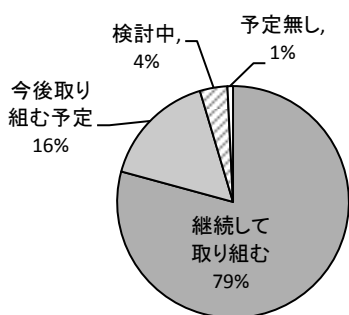


①中学校では、実施校においては「経費がかかる」、「準備等に手間がかかる」等の課題が多かった。民泊など、県外への移動や宿泊に経費がかかっている。

②未実施校では、「時間がない」が圧倒的に多い。次いで、「農業以外の体験学習を実施している」が多い。

＜「その他」の具体的内容＞
天候に左右される、長期休業中等の農園管理が困難、移動に時間・費用がかかる、外部協力者との打合せ時間がとれない、鳥獣害がある等
詳細は別紙に記載

＜今後の農業体験学習の取組予定＞



①小学校では、実施校においては約8割が継続して取り組むと回答している。

②中学校では、実施校においては約半数は「継続して取り組む」と回答しているが、約3割は「取り組む予定」に留めている。

③小・中ともに、未実施校では「予定無し」が6割以上だが、「検討中」「今後取り組む予定」としている学校も小学校では37%、中学校では21%ある。

＜調査内容＞

- 調査対象数
県内小・中学校 608校
小学校 396校
中学・中等教育学校 212校
- 回答率 85.7%
(小学校86.1%, 中学校 84.9%)
- 農業体験学習とは
本調査において「農業体験学習」とは、教育の一環として農畜産物の生産(農作業)・加工を児童生徒が実際に体験するものとし、観察や試験を目的とした植物栽培や、環境美化活動は除外した。
- 調査実施主体
宮城県(担当: 農林水産部農業振興課)